



第3節 子どもの生きる力を育む教育環境の整備

現在の子どもたちは、国際化や情報化といった中で、異文化を受け入れる柔軟さや情報機器に対する適応力等が優れていると言われています。

その反面、物質的な豊かさの中で、

- ・自分自身で考え、問題解決をしていく「学ぶ力」
- ・自分の生き方を見つめ、他者との望ましい人間関係を築いていく「誠実さ」
- ・向上心をもって困難に立ち向かう「たくましさ」

等が弱く、さらなる育成が求められています。

また、急激な過疎化や少子化が進み、地域の教育力の低下が叫ばれる中、生活や教育の拠点を都市部に求めていこうとする傾向が進んで、郷土の文化や歴史を守り育てていく人材の確保や郷土への愛着の希薄さ等の問題が顕著になってきています。これまでに増して、「郷土（ふるさと）を愛する心」を育成していく必要性が高まっています。

一方、子育て中の親たちは、地域とのつながりの希薄化や、身近な人から子育てを学んだり、助け合う機会の減少など、子育てや家庭教育を支える地域環境が大きく変化しています。さらには、祖父母世代も今の世の中の変化に戸惑い、適切なアドバイスができない状況もみられます。

これらのことから、臼杵市教育委員会では、学校・家庭・地域社会が1つになって、郷土の郷育、協力の協育、響き合いの響育の「3つのきょう育」を推進し「学ぶ力」「誠実さ」「たくましさ」を身につけた臼杵大好き“臼杵っこ”を育てていくとともに、親育ちのための家庭教育支援に取り組みます。

(1) 親や次代の親（子ども）の育成

次代の親となる児童生徒へ命の大切さや親になることについて学ぶだけでなく、今の親たちにも子どもへの接し方や、より良い親子関係の築き方など学ぶことで、子どもへの愛情や親としての喜びを持てるようにします。

(2) 子どもの生きる力の育成に向けた教育環境の整備

子どもが自分自身で夢への挑戦や自己実現ができるよう支援します。

(3) 家庭や地域の教育力の向上

家庭や学校、地域が一体となって子どもの学習を支援します。

(4) いじめ、不登校児童に対する取り組みの充実

いじめや不登校で子どもが苦しまない学校環境を目指します。





(1) 親や次代の親（子ども）の育成

＜めざす姿＞

- ・ 親は、親として必要な知識や技術・心構えを持つことができ、感性豊かな臼杵っ子を育てることができます。
- ・ 親が子ども（乳幼児期～青少年期）としっかり向き合い、受けとめ、子どもを育てることを通して親自身が気づき・学び、成長することができます。
- ・ わが子が夢を抱き、その実現に邁進する姿がみられるよう、今の親世代も、子育てについて学び、子育てに自信がもてるようになります。
- ・ 子どもが、生命の大切さや親になることについて、実感を持って学び、考えることができます。
- ・ 子どもが、学ぶことや働くことについての関心・意欲を高め、しっかりとした職業選択を行うことができます。
- ・ 本を身近に感じられるように、親子（大人）自身も読書活動を楽しんでいます。

具体的な取組

(1) 家庭教育支援（親育ち支援）の充実

- ①初めての妊娠時には、プレパパ・プレママ教室への参加を促進します。
- ②希望するすべての親に、子どもへの接し方についての養育研修を推進します。
- ③公民館や幼稚園、保育所（園）、認定こども園、子育て支援拠点等で子育てに必要な知識や技術・心構えを学習する場、親育ちの場づくりを推進します。
- ④PTA活動や家庭教育学級、子育てサークル等の各団体が主催する子育て学習会への講師派遣など学習相談や支援に取り組みます。
- ⑤臼杵市子ども読書活動推進計画「うすき読書のまちづくりプラン」に基づいて、市民総ぐるみの読書活動を推進します。

(2) 次代の親への育成

- ①児童生徒が自らの生き方についての考えを深めることができるよう、地域における先人の生き方を学ばせたり、職場見学や体験活動の充実を図ったりします。更に中学校においては、職場体験を実施し、各校の実態に沿って事業所や家庭・地域との連携や協力のもと、働くことの意義や生きることの尊さを実感できるようにするとともに、将来の進路選択へ向けての基礎を身につけさせます。
- ②保健・体育などの教科学習や道徳、総合的な学習の時間などにおいて、生命の誕生、異性理解、人間の尊厳等について学習をおこないます。
- ③幼稚園、保育所（園）、認定こども園等において中学生や高校生の育児体験学習を推進します。



先輩ママからのメッセージ

親だって最初はみんな初心者です。

はじめて親になるのだから、わからない事だらけが当たり前。

はじめて親をするのだから、できなくて当たり前。

あなたの得意な、計算だって、パソコンだって、料理だって、最初から上手だった？

上手ではなかったよね。教えてもらって、学習して、練習して、少しずつ

できるようになった事 思い出して。

子どもも あなたと一緒に。

なにもわからず、言葉もしらず、自分では何一つできない状態で

この世に生まれてきたんだよ。

一つひとつ教えてあげよう！ 自分にも、子どもにも。

たくさん ほめてあげよう！ 自分も、子どもも。

子育て支援プログラムの一例です。

子どもに対する親の言葉かけや行動を変えることで、より良い親子関係を築いていこうとする子育て支援プログラムの一つに、CSP（コモンセンス・ペアレンティング）というのがあります。以下のようなプログラムで子どもとのかかわり方を身につけていきます。

- 1、わかりやすいコミュニケーション
- 2、よい結果・悪い結果（子どもの行動を変えるための方法）
- 3、効果的なほめ方（子どもがよいことをした時の効果的なほめ方）
- 4、予防的教育法（子どもに言って聞かせる方法）
- 5、問題行動を正す教育法（子どもの問題行動への介入の方法）
- 6、自分自身をコントロールする教育法（親子の緊張が高まった時への対処方法）
- 7、フォローアップセッション（復習しながら悩みを共有し、一緒に考える）

伝わりにくい例（あいまいな言い方）

「ちゃんとしなさい！」

親

わかりやすい例（具体的な言い方）

お客さんが来たときは、「こんにちは」って挨拶して、お部屋で遊んでね。おやつはお部屋に置いておくからね！



(2) 子どもの生きる力の育成に向けた教育環境の整備

くめざす姿>

- ・子どもが、夢への挑戦や自己実現ができるよう、一人ひとりの学習意欲や習熟の度合いに応じて着実に学力を伸ばすことができます。
- ・子どもが、運動やスポーツの楽しさや喜びを味わうことにより、主体的に運動やスポーツに親しむ資質や能力が育成されます。
- ・子どもの基本的生活習慣が定着します。
- ・ふるさと臼杵をキーワードに、同世代、異世代との様々な学習（自然体験・生活体験・社会体験）を通して「誠実さ」「たくましさ」「自立心」「協調性」等が身についています。
- ・様々な活動や調べ学習、読書活動の拠点として公民館や図書館・歴史資料館を活用しています。

具体的な取組

(1) ふるさとを誇りに思う教育の推進

- ①子どもたちがふるさと臼杵に誇りと愛着を感じることができるよう、歴史や文化・地域人材を活用して、様々な体験学習の場を提供します。
- ②うすきツーリズム活性化協議会内の吉四六さんグリーンツーリズム研究会を活用し、農家の人とふれあい、農作物を作ることの大切さを感じてもらうため、臼杵市内の小学生農泊体験を推進します。
- ③公民館等の市民の交流拠点や図書館・歴史資料館等が子どものための学習の場となるような取り組みを推進します。
- ④スポーツ少年団や子ども会等の各種団体が主催する子どもを対象にした活動を支援します。
- ⑤スポーツ活動において、活躍が特に顕著な子どもたちへの支援に取り組めます。

トピックス 農泊体験学習 ～命をいただくことに感謝する～

この活動は、平成21年度より始めました。
ねらいは、2つあります。

1つは、農泊家庭の方ふれあうことを通して、「家族との団らん」というものが、とても大切なものであることに気づくことです。

もう1つは、農作物を育てたり、収穫したりする活動を通して、命をいただくことに感謝することです。

これは、食育活動の推進にもつながっていきます。





具体的な取組

(2) 学校教育指導目標【推進構造図】

めざす子ども

「学ぶ力」「誠実さ」「たくましさ」を身につけた
臼杵大好き“臼杵っこ”

臼杵市の教育ビジョン

～「3つのきょう育」の推進～

めざすきょう育

郷育【郷土のきょう育】

ふるさとの
・自然
・歴史と文化
・人材 を
活用して進める



協育【協力のきょう育】

育てる場の
・学校
・家庭
・地域 を
1つにして進める



響育【響き合いのきょう育】

みんなの
・思い
・願い
・心 を
通わせて進める

【「3つのきょう育」のもとで「生きる力」をはぐくむ10の力点】

○以下の10を力点とし、具体的な教育活動を展開していく。

- (1) 基礎的・基本的な知識、技能の確実な習得と、問題解決に必要な思考力・判断力・表現力等を育てる学習指導
- (2) 豊かな心を育てる道徳教育
- (3) 内面を磨く読書活動
- (4) 健やかな体を育てる体育・健康教育・食育、命を守る防災教育
- (5) 感動体験を大切にする特別活動
- (6) 心の結びつきを深める生徒指導
- (7) 望ましい勤労観・職業観を育てるキャリア教育
- (8) 人権尊重の精神を貫く人権・同和教育
- (9) 一人一人の教育的ニーズに応じる特別支援教育
- (10) 時代の進展に対応する教育の推進



(3) 家庭や地域の教育力の向上

＜めざす姿＞

- ・学校や家庭、地域が一体となって子どもの学習を支援します。
- ・子どもにとって、地域における楽しい活動の場が充実し、地域の人とのふれあいが広がります。
- ・地域の人々の見守りにより、子どもの安全が保たれ、親や保護者の安心につながります。
- ・保護者や地域住民の意見や考えが学校運営に反映されることにより、学校がより身近になります。
- ・情報提供や施設の開放等により、学校に対する信頼が深まり、協力関係が構築されます。

具体的な取組

(1) 学校での教育力向上の取り組み

- ①「コミュニティスクール」(臼杵南小と南中と臼杵小)を中心として、保護者や地域住民の意見が反映される学校をめざします。
- ②「土曜ふれあい学校」を全校で実施し、学校・家庭・地域の連携による教育活動を拡充します。
- ③放課後子ども教室の充実を図ります。
- ④幼稚園、保育所(園)、認定こども園での様子を家庭に、家庭での様子を通園している施設にと、相互に情報交換でき、幼児の様子や健康状態の情報が正しく伝わるように、日々の連絡システムの充実を図ります。また、緊急連絡等が確実に保護者に届くよう推進します。

(2) 家庭・地域での取り組みの推進

- ①学校行事等で活用できる地域の団体・指導者の情報を把握し、身近な先生として派遣する仕組み作りを推進します。
- ②PTAが取り組む「臼杵っこ育ての三ヶ条」の活動を支援します。

☆土曜ふれあい学校が始まりました！

平成26年の9月から臼杵市全小中学校でスタートしました。家庭と地域が連携して子どもたちの授業や体験活動、行事等を企画・実践することでより地域に開かれた学校づくりを進めていきます。

臼杵市には、校区ごとに素晴らしい特色があり、素晴らしい方々がたくさんいます。

この臼杵の良さを学校運営に活かしていくことで、さらに教育効果をあげることができると思っています。



臼杵歴史資料館で臼杵の歴史に親しむ市浜小学校生



(4) いじめ・不登校児童に対する取り組みの充実

<めざす姿>

- ・いじめや不登校など子どもに関する悩みを、身近な場所で相談できます。
- ・子どもにとって、親や学校の先生以外の大人に自分の悩みを相談することができます。
- ・学校に行きたいのになぜか行けない子どもの心が癒され、自分がしたいことや生き方を見つけることができます。

具体的な取組

(1) いじめ・不登校児童に対する学校での取り組み

- ①「学校いじめ防止基本方針」を全校で策定し、校内生徒指導委員会を定期的に開催し、児童生徒の情報共有を進めるとともに、学校内での支援・指導体制を確立し、組織的にいじめの未然防止や対応に取り組みます。
- ②不登校児童生徒に対しては「適応指導教室」等と各校が連携し、学校復帰をめざしての支援を行います。

(2) 家庭・保護者への支援の取り組み

- ①家庭児童相談室における保護者や児童に対する支援を、学校や「適応指導教室」等と連携して進めます。

いじめの構造

いじめは「いじめる生徒」と「いじめられる生徒」だけのものではありません。はやしたてたり、おもしろがったりして見ている「観衆」、見て見ない振りをする「傍観者」など多様な人間関係の関わりによっておこります。

いじめの持続や拡大には、いじめる生徒といじめられる生徒以外の「観衆」や「傍観者」の立場にいる生徒が大きく影響していると言われます。

だからこそ、いじめのサインを見逃さないことや集団全体を見ること、「いじめは絶対に許さない」という断固とした態度を示すことが必要です。



～コミュニケーションプログラム～

より良く相手と関わっていく能力を高めるために講師の指導によるインプロ（即興劇）のゲームや考え方を利用して、他者と関わる楽しさを体験するプログラムです。